

宮永敬市・田中勇次郎（編著）

作業療法士が行う IT 活用支援

渡邊慎一（横浜市総合リハビリテーションセンター）

コンピュータ、インターネット、携帯電話などに使う情報技術（information technology；IT）の進歩と普及はめまぐるしい。電車のなか、ホテルのロビー、会議室等々でパソコンや携帯端末を使用している人々は日常的な風景となった。今後も、社会インフラとして、あるいはコミュニケーションを中心とした日常の生活を支援する技術として不可欠になることは容易に想像できる。

作業療法は、生活上のコミュニケーション障害に対峙している職域である。IT に関しては、神経難病者のパソコンや意思伝達装置の活用方法の指導、発達障害児の仮名・漢字などの学習、パソコンを用いた遊びなどで IT 機器を活用している。また、就労支援の領域では、移動や外出が困難な重度障害者に、IT を活用したホームページやイラスト制作などの在宅就労を支援している。本書の編者である宮永敬市氏、田中勇次郎氏は作業療法士で、著者らとともに、障害児・者のコミュニケーション支援を実践し成果を挙げてきた。今回、教育から就労までさまざまな分野の IT 支援のエキスパートが彼らの呼びかけに応じて本書が発行されたことにより、ようやくこの分野が体系化されたという感が否めない。

本書によると、IT を活用する技術は、インターネットやコミュニケーション機器の導入である「情報を扱う技術」が注目されがちだが、具体的には、IT により、情報がもつ再構成できるという特徴を活かし、多様な選択肢のなかで利用者や周辺の状況に合わせて、わかりやすさを促進させることが支援の内容であるとしている。つまり、IT 活用技術とは、個々の情報化の手助けとなる「情報のわかりやすさを扱う技術」、つまり個々に必要な「情報をつけ足す・減らす・形を変える技術」と位置づけている。

本書の構成は、総集編（作業療法士の役割や専門性、IT 支援の考え方・疾患別ポイント、社会資源）と技術編（基礎知識、コミュニケーションボード、スイッチ、呼び出し機器、パソコン、遊びや学習の支援）からなり、技術編では具体的かつ実用的な内容が詰め込まれ、臨床に役立つ実践書となっている。障害の状況に応じて適切な IT 活用支援を行える人材が不足している。作業療法士はもとより、リハビリテーション関連職種の臨床に本書を参考にされ、障害者の支援に役立てていただきたい。

（A4 判変 174 頁 定価 5,400 円＋税 医歯薬出版刊 2011）